



混合保育



混合保育って何だろう？と思われる方もいると思います。愛星保育園では、その子の成長発達に合わせてその子が安心できる環境であれば自分のクラス以外で過ごしたり、「0歳児だから2歳児、幼児とは（成長発達が違い過ぎるから）過ごせない」ではなく、年上児のしている事に興味を持っているのであれば、クラスを分け隔てるのではなく、保育者が環境の安全を確認した上で判断をし、子どもの主体性を大事にした保育をすることと考えています。

感染症（コロナ）への対応も3年目ともなると世間的にも柔軟になってきました。園も感染症対策を行いながら、異年齢児の関わりを積極的に考え活動に取り入れてきました。また、今年度は職員が愛星保育園の混合保育の再確認・共通理解が出来るように園内研修を行いました。

幼児組（3.4.5歳児）

幼児組は同じフロアで過ごしていることもあり、保育者のちょっとした声掛けで日々年下児と年上児の関わりが繰り返されています。そんな中、今年度は夏祭りごっこで2グループに分かれて御神輿作りを計画しました。まとめ役は保育者が行いましたが、年長児は「自分達が一番上だから助けてあげないと」という気持ちを強くもち、年下児のお世話をする姿が見られ、一つの物を作り上げる嬉しさや達成感を味わうよい経験となりました。

秋には、3歳児も年下児と散歩に出掛ける機会を作りました。「私たちもお世話が出来る」とはりきって手を繋ぎ散歩に出掛ける姿は今までお世話をしてもらった年長児そっくりでした。帰園後子ども達から「お世話って疲れるね」「でも楽しかったからまたしたいな」と“自分達にもできた！”という自信に繋がったことを感じました。

乳児組は“小さくて守ってあげないといけない”と子どもながらに思うようで、幼児組で過ごす時と違った優しさが見られることを感じました。様々な経験の一つとして、保育者同士で混合保育の良さを感じながら今後も取り組んでいきます。



乳児組（0.1.2歳児）

乳児組は感染症の影響もあり、幼児組との交流がなかなか出来ない時期もありましたが、状況を見ながら芝生や散歩先など戸外で過ごす計画を作り、一緒に過ごす時間を取り入れてきました。初めは散歩先まで手を繋いで歩く事に少し緊張していた子もいましたが、繰り返し経験する事で優しく接してもらい喜びを感じ、「お姉さん」「お兄さん」と手を振ったり、抱きつく姿も見られるようになってきました。

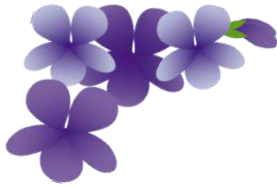
また年上児に優しくしてもらった経験から乳児組の中でも年下の子に「可愛い」と言いながら手を引いて歩いたり、名前を呼んだり様々な関わりから子ども達の心の成長した姿を感じられる事もありました。

年上児から愛され優しさを受けた事で、子ども達の心と体が成長した事を実感した一年。今後も職員同士で子ども達の様子を良く見ながら、一人一人にあった混合保育の取り組みを行っていきたいと思います。

混合保育について園内研修を行いました

混合保育への理解を保育者同士の共通理解と混合保育の進め方のアイデアを出し合うため、職員同士ディスカッションを行いました。冒頭にも記した通り、混合保育とは、子どもの主体性を大事にした保育であることや異年齢児だけでなく、同年齢との関わりや国籍、一時保育、障がいなど関係なく全ての子どもが関わる環境が愛星保育園の混合保育であることを確認しました。ただ、保育者間で考え方や経験の違いにより上手く混合保育を進めていけないこともあるという意見もあり、職員同士のコミュニケーションが取れる良い関係が大事であるという話もできました。

理念の一つに“全職員が全園児の担任”を掲げています。混合保育を進めていくことでこの理念も自然と進めて行けることに気付かされ、そして職員同士が同じ方向を向いて保育を行うことで“子ども親も職員もともに育ちあう”ことができるようになる」という話で研修は終わりました。理念に掲げていることに誇りを持ち、今後も保護者の皆様と子育てについて考えていきたいと思ひます。



健やかな成長を祈って



子どもの成長発達に停滞や後退を感じたりすることがあっても、一年を振り返ると確実な進歩を実感でき嬉しいです。今年も健康な成長を祈り、感染予防に注意しながら豊かな時を共に過ごせるように関わってきました。

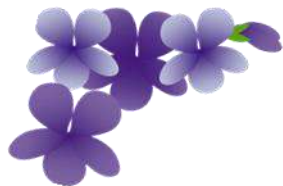
感染予防の基本は手洗いからという事で、保育園では0歳児から丁寧な手洗いを心掛けています。毎日登園時から何度も手洗いを繰り返す事で、0歳児でも袖をまくるところから始まりペーパー捨てまで自分でしようとする姿が見られます。また、乳児組では登園時保護者の方と、園内では保育者が毎回の手洗いを丁寧に綺麗にするように関わる事で、衛生的な手洗い習慣が付く事を願っています。2歳児からは手洗いの自立を目指して保健指導をし、個人の到達度をクラス担任と話し合い日々の関わりに繋げています。手の洗い方にも個性があり、良く擦る子細部を洗う子水を感じる子等さまざまです。幼児組になると毎月保健の話をしているので、その都度手洗いの歌に合わせて練習しています。4、5歳児はもちろん3歳児も手洗いの必要性を理解し歌いながら手を動かせるようになり成長を感じます。冬は特に手が荒れやすいので水分を拭きとる事も知らせています。

保育園では3歳児検診では分からなかった視力異常のマスクリーニングとして、見え方検査を4、5歳児に対して毎年7月に行っています。今年もお昼寝後の体調が整った照度のある時間に、初めは少人数ずつ、2回目はクラスごとに、見え方検査の方法を説明し出来るかどうかの確認をしてから検査をしました。各ご家庭で眼科受診をされていたり、3歳児検診で行ったことを覚えていたり、検査用のメガネをかけランドル管を使用しての検査を理解しスムーズに行うことが出来ました。体調や気分などで見えづらいこともあるので確認の為全員に2回行っていますが、今年度は特に基準値が見えず眼科受診をお願いする子が多くみられました。眼科での検査では問題のない子もいますが、矯正や経過観察が必要な子もあり、現在眼鏡を使用している子は過去最高人数となりました。視力の発達は6歳くらいまでがピークで、早くに異常に気が付けば矯正が出来るケースも多くあります。10月10日の目の日にちなんで幼児組保健のお話では遠くで動くものを探したり眼の体操をしたり沢山睡眠を取ったりするなど、目に良い事のお話もしています。自然環境や広い所が少なく目を鍛える機会が限られる都会の子ども達に今後も適切な働きかけを考え提供して行きたいです。

子ども達は大好きな人の影響を大きく受けて成長していきます。これからも保護者の方々と共に子ども達の健康な生活を応援していきたくと思っています。

看護師 宇山真紀子





つなぐ笑顔。つながる未来。



今年度より、私達メフォスが給食を作らせていただくこととなりました。お子様達の様子を見ながらのスタートになりましたが、新しい献立、新しい食材にもそれほど抵抗なくお子様達が受け入れて食事をする様子が見られ安心する日々です。

食育の面ではグリンピースのサヤ剥きを初めとして、タマネギの皮剥き、キャベツちぎりや、自分たちで収穫した野菜を調理室に持参しこちらで調理しての提供、遠足で掘ったさつまいもを使った芋ほり調理保育では実際にクラスで調理する等、食物に対する興味が湧くような体験を行いました。どの作業もお子様達が楽しみながら進めており、野菜を剥きちぎる作業ではお子様達同士が声を掛け合いフォローしながら作業していて、こちらが学ばせてもらっているような気持ちでした。

毎月の栄養士からの話ということで、食物が体の中でどうなっていくのかの仕組み、三色群の働き、旬の食材の紹介等の話をさせていただきました。お子様達はいつも真剣に、時には自分の意見を伝え、興味を持って取り組む様子が見られました。

給食を作っていく中で、夏頃に暑さで食欲が落ち食べ進まない日もありましたが、冷やし麺やさっぱりした献立を入れることで様子を見させていただき、10月頃には食欲の戻りを感じました。今後も先生方と連携を取りながらお子様がきちんと栄養が取れるように献立での工夫を行っていきたいと思います。

お子様達の食事を見ている中で、「今まで見たことが無いものが嫌い、でも食べてみたら美味しかった」「これはどうやって作ったの？」と声掛けがあり、目の前にある食事へ興味を持ちながら向き合ってくれる有難さを感じます。お友達が苦手な食べ物を知っている子も居て、頑張って食べた時はお子様達同士で認め合う様子も見られました。成長していく中で食べる物を選択する機会が増えていくことと思います。食べることは生きるために欠かせないこと、食べたもので体が動いていること、美味しいものを食べるというだけでなく、自分の身体をより良く維持するための「栄養」という部分を引き続き伝えていき、お子様達が大きくなった時選択の助けになるような体験ができるよう努力するとともに、愛星保育園の「子も 親も 職員も とともに育ち合う」という保育理念に私達も寄り添い、今後も園と協力しながら安心・安全な給食の提供に努めてまいります。

株式会社メフォス 石渡真子



活動報告（父母の会）

日頃から父母の会活動にご理解とご協力を頂きありがとうございます。また、毎日仕事に子育てで大変な日々にも関わらず本年度、父母会運営に参加頂いた役員の皆様には心から感謝申し上げます。

この3年間はコロナの影響で園の行事のみならず、父母の会の活動もこれまでのようにはできませんでした。そんな状況下でも本年度は秋まつりで父母の会主催の「お譲り会」を執り行うことができました。園の行事に父母の会が参加し、子ども達と保護者を巻き込んで執り行われたこの企画は、子ども達が他クラスのお友達と交流する機会となっただけではなく、園と保護者、更には保護者同士交流の機会を生みました。また、当日お譲り先が見つからなかったものについては子ども支援活動団体へ寄付させて頂きました。愛星父母の会の目的は「園と父母、父母相互の連絡を密にし、親睦を深め協力体制を確立する。また、保育園に協力し、この地域の環境改善のために努力する」と会則にあります。この目的に立ち戻って考えると今回の「お譲り会」は制限のある中での開催ではあったものの、父母の会の目的に沿った活動になりました。この企画は父母の会役員の方を始めとする多くの保護者の方が協力して下さり実現しました。来年度は更に多くのイベントや、父母の会が携われる機会を増やせば、それが結果として子ども達の園生活がよりよいものになる一因になるのではないかと感じています。

愛星保育園と保護者の方々との出会いは子ども達が結んでくれたご縁です。この子ども達が結んでくれた縁を今後も大切にしつつ、父母の会としては子ども達が更に良い園生活を過ごせるよう少しでもサポートさせて頂ければ幸いです。

最後になりますが、先生方には大変な状況の中、いつも子ども達を温かく迎え入れてくださる体制を作って頂き、大きな愛を子ども達だけではなく私たち保護者にも与えてくださっていることに心から感謝いたします。

令和4年度 父母の会会長 渡辺美沙



変わらない「もの」という理念・哲学

法人理事長 結城康博

当法人の理念でもある「カトリック」という意味は、ご存じでしょうか？日本語で訳すと「普遍」「普公」と言われます。簡単に言えば変わらない「理念」「考え方」といったところでしょうか。

そこで、みなさんは社会の中で生きてきて「普遍」的なものは？と問われると、何をイメージするでしょう。「愛」「友情」「信頼」などを思い描くのではないのでしょうか？私は、普段は淑徳大学（社会福祉学科）の教授職に従事していますので、学生に同様な質問を授業中（ゼミ）にします。学生らからは似たようなキーワードが返ってきます。

しかし、お子さんらと共に暮らしていて、世の中で普遍的な「もの」とは、果たして存在するのかと思ったことはありませんか？

仕事、学歴、お金……永遠に保障されるものは極めて少ないのではないのでしょうか？その意味では、せっかくご縁があって当園に来ていただいたので、人生において変わらない「もの」を探求してはどうでしょうか？

例えば、3年間のコロナ禍において「家族」の絆、友人の「思い・励まし」など永遠に変わらないものと、ふと感じたことはないのでしょうか？何がしか、コロナ禍では困ったことはあったと思いますが、誰かに助けてもらった？元気づけてもらった？といった経験があるかと思います。このような「人」と「人」との繋がりは、普遍的なものではないかと……私は、思います。

いわば永遠に続く人間関係を構築することこそ、人生においては重要なことだと、コロナ禍では実感しました。もし、普遍的な人間関係の構築が苦手な人は、どんなに財産や地域を築いても、その立場が続く保障はないと思います。やはり、信頼できる「人」とのつながりを構築できることこそが、人生において最大の財産になると思います。

その意味では、当園は「カトリック＝普遍」という理念に基づいて、お子さんが育ってもらうことを大切にしています。つまり、「人」を大切に。「人」と「人」との繋がりによって、人生が成り立つということ、自然と感じてもらえる「人間」に育ててほしいと願っています。

私は、愛星保育園で育てたお子さんたちが、20年、30年後、社会で活躍するとき、普遍的な理念・価値観とは、「人」と「人」との信頼関係であるということ踏まえた大人に成長していることを期待しています。そのような人は、必ず社会貢献、活躍できるはずだからです。